

## ◆ 今週のコメント

- ・ 手足口病の定点当たり報告数は1.07(44例)で、先週(1.22)に比べやや減少しているものの、依然、多い状態が続いています。年齢階級別では、1歳が36.4%と最も多くなっています。
- ・ 新型インフルエンザ(A/H1N1)患者の集団感染(クラスター)の報告は、先週に比べて京都府(京都市を含む。)では7件増加しており、全国では335件増加しています。
- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は0.25(17例)で、過去5年平均値0.003(0.2例)を大きく上回っており、第30週の0.16(11例)以降、10例以上の多い値となっています。  
ただし、第30週以降のインフルエンザの報告は、「新型インフルエンザ(A/H1N1)」を含んだ報告に変更されています。

## ◆ 今週のトピックス: <ヘルパンギーナ>

今週の定点当たり報告数は1.22で、過去5年平均値(1.86)を下回っていますが、本年度で最も多くなっています。  
詳細をトピックスに掲載しています。

## ◆ 発生状況

### 全数報告の感染症

- ・ 二類:結核 1例(肺結核 1例, 肺外結核 なし, 無症状病原体保有者 なし), (喀痰塗抹陽性 なし)  
【1月以降の累積報告数 229例(肺結核 146例, 肺外結核 59例, 無症状病原体保有者 24例), (喀痰塗抹陽性 71例)】

### 定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.25	17
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.32	136
	② ヘルパンギーナ	1.22	50
	③ 手足口病	1.07	44
	④ 水痘	0.56	23
	⑤ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.39	16
	⑤ 突発性発しん	0.39	16
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

### 病原体情報

ありません。

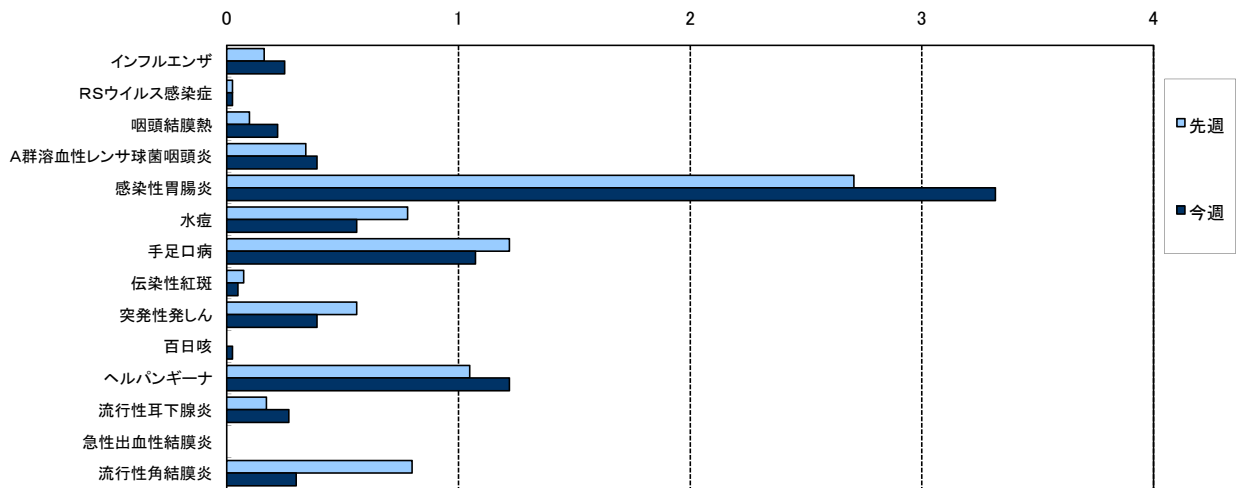
### 【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <ヘルパンギーナ>

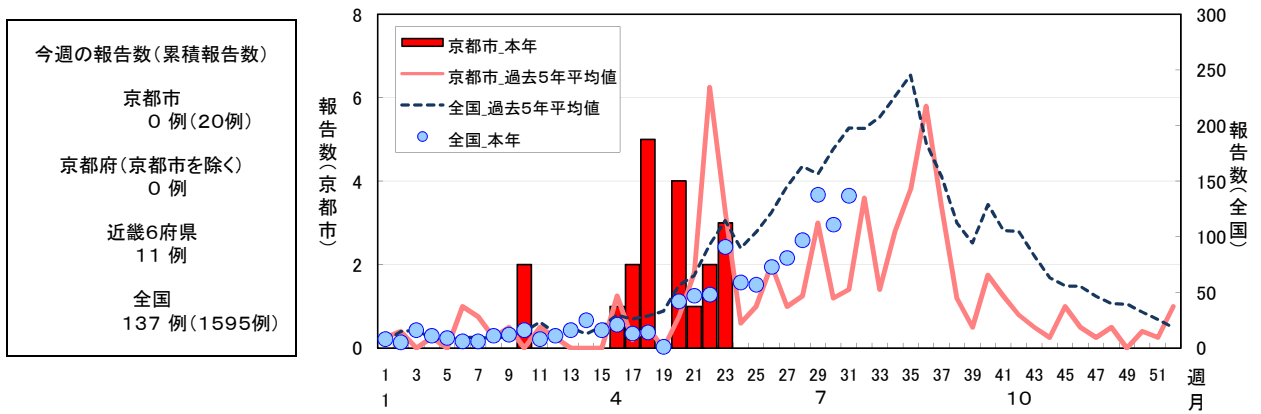
(注) 京都市のデータは、平成21年8月6日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。  
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。  
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

# ◆ 発生状況の概況グラフ

## 1 今週(第31週)と先週(第30週)の定点当たり報告数の比較

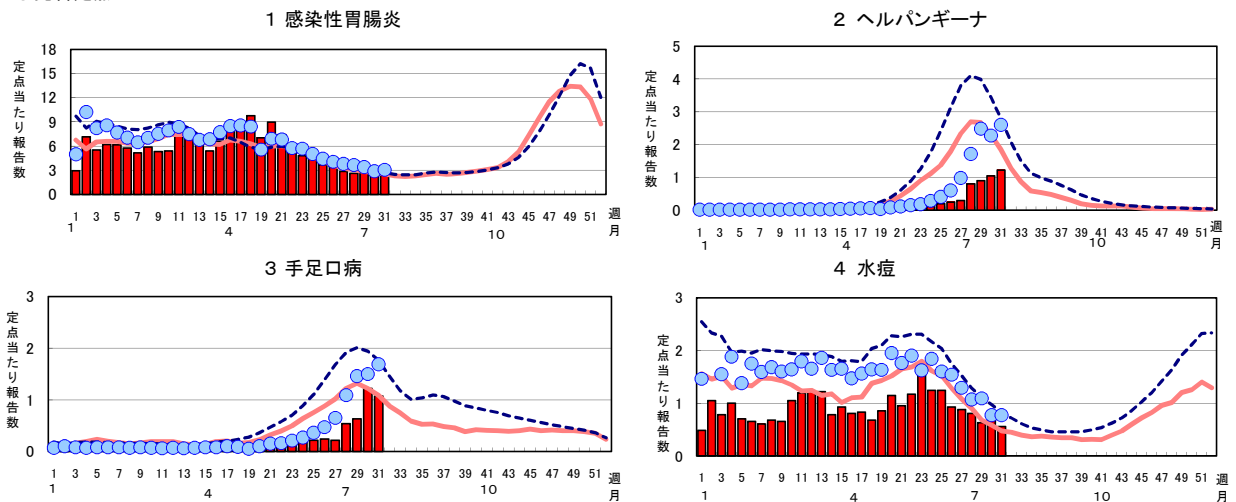


## 2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

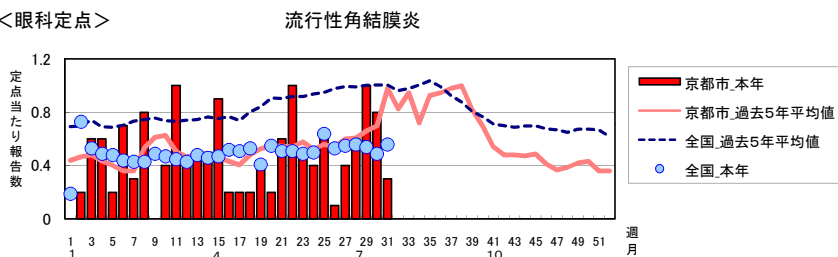


## 3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



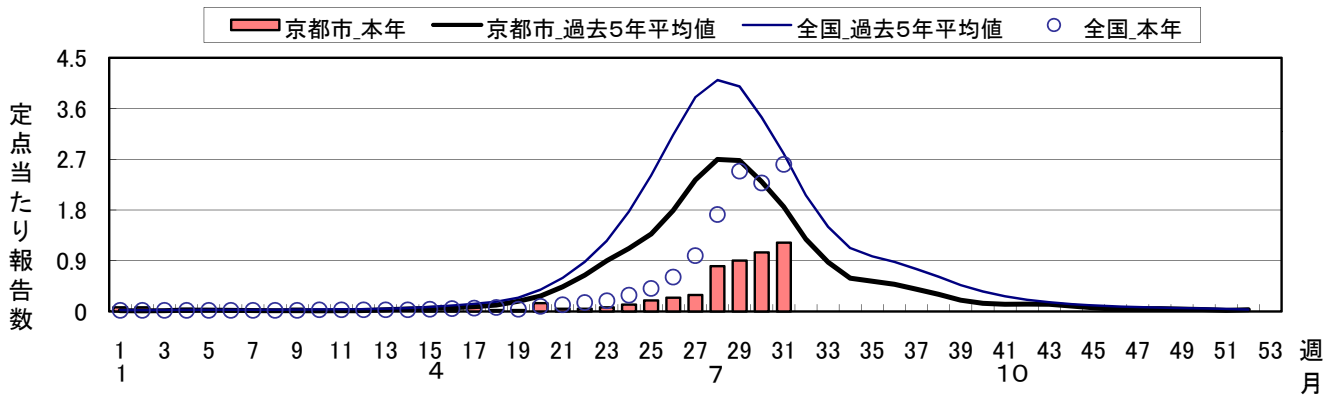
<眼科定点>



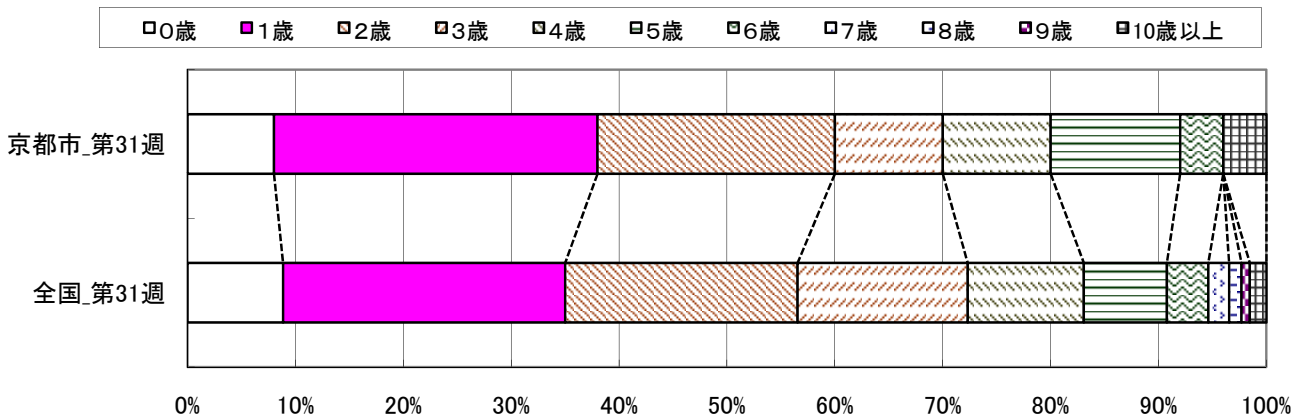
## 今週(第31週)のトピックス: <ヘルパンギーナ>

今週の定点当たり報告数は1.22で、過去5年平均値(1.86)を下回っていますが、本年度で最も多くなっています。推移をみると、過去5年平均値に比べ増加の時期は遅れているものの、依然、増加しています。年齢階級別報告数割合では、本市及び全国とも、1歳が最も多く(本市30.0%、全国26.1%)、2歳以下の割合が本市では60.0%、全国では56.3%を占めています。行政区別では、11行政区中、10行政区から報告があり、先週に比べ5行政区(北、左京、東山、山科、伏見)で増加しています。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移(第1週~第31週)



年齢階級別報告数割合



行政区別定点当たり報告数

